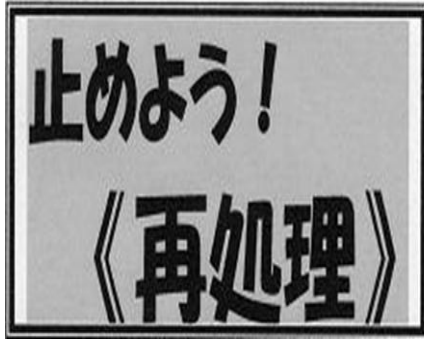


**三陸の海を放射能から守る  
岩手の会**

郵便振替 02240-5-102650  
ホームページ《再処理／岩手の環境》  
<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>  
《まった再処理分庫》  
[http://briefcase.yahoo.co.jp/k\\_imag](http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag)



**《天恵の海》**

2012(平成24)年  
11月 9日  
第119号  
編集事務局 S.Oshida  
TEL・FAX 019-623-1636

**福島市など13市町村検診  
43%の子供たちの甲状腺に異常  
福島県、甲状腺検査を公表**

福島県の「県民健康管理調査」検討委員会は九月十一日、第八回委員会を持ち、『甲状腺検査』などの調査資料を公表しました。

甲状腺検査は、原発事故時点で零歳から十八歳であった全県民を対象として開始されました。

昨年度は十月九日から三月末日まで、事故現場に近接する大熊町、双葉町など十三市町村の住民と避難者(四万七千七十六人)を対象に行われ、四月二十六日の第六回委員会公表されました。本年度分は五月十四日から福島市など十三市町村(五万三千六百九十九人)を対象に行われ八月末日までの集計分を今回発表しました。

「A1判定」＝結節や嚢胞(のうほう)を認めなかったもの＝は、六四%から五六%に減っています。



福島県二本松市で甲状腺検査を受ける子ども。  
(提供 佐々木るり)  
『週間金曜日』  
2012.9.21号 5ページから

**日本の子供たちを放射能から守れ!  
早急な防護医療体制の確立を!**

**甲状腺診断判定結果 平成23年度(10月～平成3月)・24年度(5月～8月31日)**

検査者数(人)		23年度		24年度	
		38,114		42,060	
判定	項目	人		人	
A1	結節や嚢胞を認めなかったもの	24,469	64.2%	23,702	56.3%
A2	結節(5ミリ以下)や嚢胞(20ミリ以下)を認めたもの	13,459	35.3%	18,136	43.1%
B	結節(5.1ミリ以上)や嚢胞(20.1ミリ以上)を認めたもの	186	0.49%	239	0.57%
C	甲状腺の形状から判断して直ちに二次検査を要するもの	0	0.0%	0	0.0%

- ・A1、A2判定は次回(平成26年以降)の検査まで経過観察(A2判定の内容であっても、甲状腺の状態などから二次検査が必要な場合、B判定)
  - ・B、C判定は二次検査、細胞検査など実施
- 福島県ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/imu/kenkoukanri/240911siryou2.pdf>

本年四月の第六回委員会では、浜通りなど十三市町村分の検査結果(昨年実施)が公表され、「子供たち(平均年齢一〇歳)の三六%に嚢胞が発見された」というニュースが伝えられました。

今回の第八回委員会では、本年分の福島市など十三市町村の調査結果が発表されましたが、嚢胞保有者はさらに多い四三%でした。

今回は嚢胞の大きさ毎の保有者数も発表されましたが(裏面)B判定の中でも一〇・一%以上の人が三人がいます。

**過去のどの調査よりも高率な嚢胞保有率**

北海道の深川市立病院の松崎道幸医師は五月に「意見書」を作成し公表しました。

松崎氏は、甲状腺のしこりや嚢胞は生まれた時はほとんどゼロであるが、五歳ころから徐々に増え始め二〇歳になると十人に一人くらい甲状腺にしこりや嚢胞が出来る。しかし、子供にこんなに嚢胞が発見された例はない。

過去の調査では長崎県七〜十四歳児

嚢胞		23年度	24年度		23年度	24年度
検診者総数(人)		38,114	42,060		100%	100%
なし		24,731	23,921	A1	65%	57%
あり		13,383	18,139		35%	43%
ありの内訳	～3.0mm	7,036	10,424	A2	18.5%	24.8%
	3.1～5.0	5,377	6,609		14.1%	15.7%
	5.1～10.0	949	1,069		2.5%	2.5%
	10.1～15.0	18	29		0.0%	0.1%
	15.1～20.0	2	5	0.0%	0.0%	
	20.1～25.0	1	1	0.0%	0.0%	
	25.1～	0	2	B	0.0%	0.0%

嚢胞保有率〇・八％  
米国など一〇歳児  
嚢胞保有率〇・五～一％  
チェルノブイリ原発周辺  
十八歳未満  
嚢胞保有率〇・五％

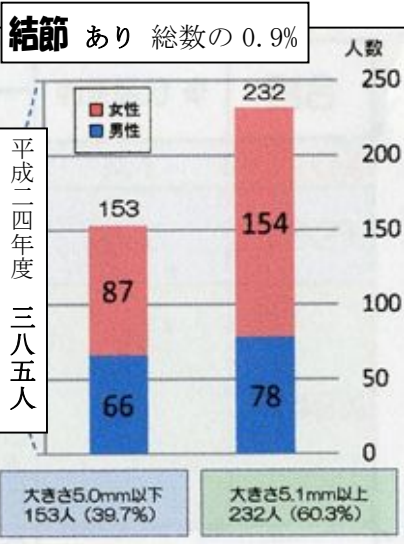
など極めて低率であり、調査の地域の小児の甲状腺が望ましくない環境の影響を受けている。恐れを強く示している。手遅れにならないうちに避難および早急な検診や被害予防的対策が必要と述べています。

### 結節(しこり)保有者

今回の発表では、結節保有者は、兩年とも偶然三八五人。被験者の〇・九％(昨年度)と一・〇％(本年度)と記されています。二五・一ミリ以上が五人から九人になり、女子が多いのが注目されます。

### 小児甲状腺がん二名確認

第八回検討委員会の記者会見で「甲状腺がんを二次検査で一人確認した(八月)」という発表



結節あり(人)	23年度	24年度
5.0mm以下 女	102	87
5.0mm以下 男	99	66
5.1mm以上 女	127	154
5.1mm以上 男	57	78

がありました。これについて「福島原発事故の影響なのかどうか」の質問がなされました。

委員会オプザーバーの福島県立医大教授の鈴木眞一氏は「チェルノブイリ事故の調査から事故後四年以内に発症した例はない」とし「放射線被曝とは関係ない」旨の論を展開しました。

この点について、十月十五日に「市民と科学者の内部被曝問題研究会」(理事長沢田昭二氏)から鈴木教授への質問書が提出されました。

内容は「チェルノブイリでは事故後四年を待たず、発症している。実例は山下俊一副学長(委員会座長)の「平成十二年原子力委員会宛報告書」にあり、「ベラルーシのゴメリ州では事故

前年に一人、事故の一九八六年一人、八七年四人八八年三人・九一年が四七人」となっている。放射性ヨウ素による小児への影響を、大人のガンにすり変えるのは間違いである。そして発症の患者についてプライバシーに係わらない範囲で、医学的データを知らせて欲しい、など十一項目が質されています。

### 福島の甲状腺調査 世界が注目

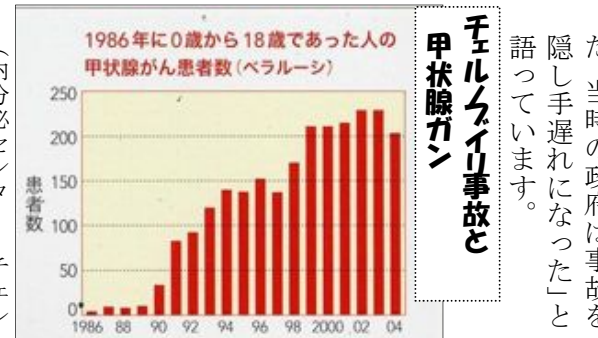
「福島の子供の多くに甲状腺異常」のニュースは世界が注目しています。『子供たちを放射能被害から守る全国ネットワーク』のホームペー

ジには、オーストラリアの医師カルデコット氏が「この検査の有効性は確認できる。事態は緊急を要する。普通ならこんなに早い時期(一年以内)に異常発生は見当たらない。多くの放射能に晒されたと解釈して間違いがない」と語り、アメリカの甲状腺学会長でコロラド医科大学のホーゲン医師も特に「五ミリ以上の結節は生検の必要がある」と語ったといっています。

重大です。子供達を守るために日本の政府と国民は総力を上げて放射線防護の政策を実行しなければなりません。

### 子供たちの甲状腺検査実施を岩手県知事に要望書

国の「汚染状況重点調査地域」に指定された一関市、奥州市、平泉町において、「子供たちの甲状腺検査実施を求める要望書」を、達増拓也岩手県知事に提出することにになりました。提出するのは、子どもたちの未来を考えよう平泉の会(平泉町)、里山生活学校(奥州市)、六ヶ所ラプソディー(岩手県南・宮城県北上映者の会(一関)、岩手ホスピスの会(盛岡市)、三陸の海を放射能から守る岩手の会(盛岡市)の五団体。賛同団体を募集しています。



「日本の総力を上げて子供たちを守れ」甲状腺検査の結果は

- 1、重点地域の三市町において十八歳以下の子供の甲状腺検査を実施し結果を本人と保護者に知らせること。状況によって詳しい継続検査を行うこと。
- 2、結果をもとに「県内部被曝健康調査有識者会議」を開催し判断を得ること。その会議に市民代表も加えること。
- 3、甲状腺障害以外の疫病予防についても対策を行うこと。